



市民まちづくりセンタースタッフ

山崎 信人

★市民まちづくりセンター

10月2日オープン★

「市民まちづくりセンター」は、市内の活動団体さんをはじめ、まちづくりに興味のある方、企業や教育に関わる方など、市内で「このまちを楽しく、住みやすくしたい」という方に情報を提供したり、相談を受けたりするところです。

私は、今まで人生の半分以上も音楽に関わってきた中で、まちづくりを絡めて考えたことはありませんでした。「まちづくりは市役所がやること」と思っていました。しかし、ある時ふと、「コンサートなどで人が集まればそこが賑わいの場となるなあ」と思いました。ちよつと視点を変えたことで、自分たち

の活動がまちづくりに関係していることに気づいたのです。現在では、自分たちの活動の拡大と、「賑わいのある元気なまちづくり」を目的として、毎月第3日曜日に蒲郡駅前でコンサートを行っています。

このような体験を生かし、皆さんのちよつとした思いや活動で、「もつと楽しくワクワクできるまち」になるように一緒に考えていきたいと思っています。

勤労福祉会館の2階で、毎週火曜日から土曜日の午前10時から午後6時まで、私をはじめ気さくなスタッフがお待ちしています。ぜひ、お気軽に足を運んでみてください。



竹島水族館 ☎68・2059

水槽をバックに記念撮影するのは、思い出にもなり、楽しいものです。今回は、水族館で上手に写真を撮る方法をお教えしましょう。

最近ではデジタルカメラが主流ですが、フィルムカメラでもどちらにしても、注意してほしいのはフラッシュです。水槽のガラスはフラッシュの光を反射するので、水槽に向かって正面から撮るとフラッシュの光がまともに返ってきてしまい、真っ白な画像になってしまいます。フラッシュの光を逃がすために、水槽のガラス面に向かって斜めから撮ると反対側に光が逃げるので、上手に撮ることができます。

### 水族館写真術

しかし、フラッシュ撮影をすると、人間はうまく写っても後ろの魚が真っ黒になってしまう場合があります。そんな時は、フラッシュを使用しないで、デジカメの「夜景モード」にすると、人も魚も上手に撮れます。また、光も反射しないので、水槽の正面からでも撮影可能になります。

次に魚の撮影方法ですが、これは飼育員たちも苦労しています。とにかく魚は常に動いていることが多いので、ピントを合わせづらく、ブレやすいのです。

魚を上手に撮るコツの1つは、とにかく魚の動きをよく読んで、止まったときに撮ること。そして、もう1つの秘密技としては、魚の動きに平行してピントを合わせたままカメラを動かします。これは難しい技ですが、この方法だと魚は上手に撮れ、後ろの背景は、流れてブレたように撮影されます。

水族館に来たときは、ぜひ、思い出にいい写真を撮ってくださいね。